平和教育関西国際フォーラム

2011年5月14日（土），15日（日）
京都教育大学藤森キャンパス（F棟）

５月１４日（土）午後１時30分から午後４時30分

「ガンディーと原子爆弾」
酒井 知美（大阪女学院大学）

英国支配下のインドを、あらゆる人間性から生命に光を当て、不屈の生命の力である非暴力によって独立へと導いたマハトマ・ガンディーが原爆をどのように捉えていたのかということ。また、ガンディーと親交があり核軍縮に貢献した人物、とくにガンディーの非暴力から影響を受け核軍縮に貢献した人物であるアルバート・アインシュタイン、独立インド初代首相ネルー、パグウォッシュ会議元会長スワミナサン氏について述べる。

「ポーポキ、平和って、なに色？じゃ、戦争は？」ロニー・アレキサンダー（神戸大学）

日本の平和教育に欠かせない「証言」。そういった「証言」を歴史としてではなく、本当にあったこと、そして私たちに関係あるものとして学生に伝えるのにどうすれば良いか。ポーポキ・ピース・プロジェクトは、全身をつかって平和や戦争、暴力を「感じる」ことを通じて、証言をより身近なものにしようとしている。本報告では、そのための参加型的による取り組みを紹介する。

「世界の子どもたちとの協同学習・共同制作を通して異文化理解」塩飽 隆子（ジャパンアートマイル）

アートマイル国際交流壁画共同制作は、日本の小中高校生が海外の交流パートナーとインターネットを使って交流し、同一テーマで協同学習を行い、学習したことや伝えたいメッセージを絵に表して壁画を共同制作するプロジェクトである。この学習を通して英語のコミュニケーション力や情報活用能力が育つだけでなく、自分をもっと分かって欲しい・相手をもっと分かりたいという欲求から異なる他者を理解する態度や寛容さが身につき、「異なる相手と分かり合うことが世界の平和に繋がる」と考えるようになる。この取り組みは人々と協働して未来を築く次世代を育てるのに有効である。

「「平和教育学」の新たな用語と意味（概念）の考察」
金 惠玉（ Kim Hye-ok)(立命館大学,大阪産業大学, 奈良県立医科大学非常勤講師)

近年、日本の平和教育研究において、「平和教育学」という新たな学問領域についての関心が高まっているが、まだ、平和教育学に関する先行研究も少なく、「平和教育学」という用語さえいまだ一般的には論じているとは言い難い状況であると言える。今日、平和教育の多様な理論と実践をより体系的に、総合的に研究し、より価値志向的な平和教育を研究するためには、「平和教育学」の新たな領域を創り出すことが必要であろう。そのために、とりわけ、「平和教育学」という新たな概念を定めるためのプロセスとして、諸学説を踏まえ用語と意味を検討して論ずる。

５月１５日（日）午前９時30分から午後12時30分

「イスラエル・パレスチナ紛争下における民族の共生と相互理解教育―ユダヤ・アラブの共生村［平和のオアシス］の実践から」吉村 季利子（大阪大学大学院）

イスラエル・パレスチナ紛争の解決に教育が果たす役割は、これまでも議論の的となってきた。イスラエルにおける民族別学校は、その形式が共生の妨げとなり、教育内容は紛争を助長するとの指摘がなされてきた。そのようななか、イスラエルで唯一ユダヤ人とパレスチナ・アラブ人が二民族・二言語・三宗教の平等を掲げ、平和的共生を実践する村（「平和のオアシス」）がある。本報告は、報告者の現地調査をもとに、この「平和のオアシス」の初等学校ならびに平和学校、スピリチュアル・センターの40年近くにわたる共生を可能にする教育プログラムを概観する。 さらに、スピリチュアル・センターの仏教的理念を取り入れた対話プログラムを精査し、その効果と課題を報告する。

「多文化社会の宗教理解教育―英語教育における教材開発とフィールドワークの実践」大場 智美（龍谷大学短期大学部）

英語教育においてもはや異文化理解は欠かせない要素となっている。しかしながら、異文化を理解する鍵となっている宗教を扱う教材は極めて少ない。本発表では、世界の様々な宗教を教えながら多文化共生の大切さを示唆し、またその教材開発と指導法の実践例を提示する。さらに、多くの宗教的建物が密集している神戸市中央区北野町にてフィールドワークを行い、住民が平和に暮らす様子を知ることによって、平和な社会の実現を知る機会を得る。実践報告を中心に、実践教育の重要点、及び異文化理解を教えるにあたっての注意点、並びにフィールドワーク後の学生の変化について発表する。

Japanese Human Security Interventions in Sri Lanka: Evaluating the Peace-building Outcomes
Albie Sharp (Ritsumeikan University)

紛争後の復興支援にとりくむプロジェクトおいて、その評価が課題となっている。NSW大学の公衆衛生・地域医療学部による「地域開発と健康ツール」(Health, Development and Community-Building Filter)は、プロジェクトのアセスメントとしてもちいられるものである。それは「文化的配慮」「紛争への対応」「信頼」「公平性と反差別」「ジェンダー」「地域的適合性」の６つの要因からなっている。さまざまな組織にわたる参加型による評価が望まれる。本報告ではスリランカでのこの事例を検証する。

「まちんと - Where is the little bird crying?」高木 洋子（グローバルプロジェクト推進機構　JEARN［http://www.jearn.jp/japan/ ］）

「まちんと」は広島の原爆投下を描かれた童話作家松谷みよ子氏の絵本です。 グローバルな教育ネットワークiEARNで２００６年に誕生した「まちんと」プロジェクトの紹介、海外の学校での取り 組み、日本国内の参加校の動き、また国内外の生徒たちによる平和を主題とする創作絵本を見ていただきながら、今後、どのような発展を期待しているかについて話します。

国際平和教育研究集会(IIPE: International Institute on Peace Education)連携
平和教育関西国際フォーラム
世話人：野島 大輔，淺川 和也, 村上 登司文
使用言語：主に日本語（必要に応じて英語/通訳適宜）
参加費：無料

連絡先：平和教育地球キャンペーン
GCPEJ（e-mail: hapgcpej@gmail.com ）
登録フォーム：https://ssl.form-mailer.jp/fms/0833ff67139609
参加については締切はありませんが、なるべく事前登録をお願いします。